



くすの木



11月の生活目標：「美しい学校にしよう」

平成28年度No. 14 (文責：徳弘、永野)

四万十市立具同小学校 (TEL: 37-3249)

真心と込めた合唱 達成感のある合奏

－わたり会合同発表会・全校音楽・中央区音楽祭－

“芸術の秋” “文化の秋”、現在、中村小学校体育館で「幡多教育文化展」が、中村南小学校体育館で「四万十市教育文化展」が開かれ、書・画・詩等を展示しています。年に一度の“一條さんのお祭り”と共にお子さんとぜひお楽しみください。

さて、『中央区(四万十市・三原村)小学校音楽祭』に向けては、5年生は9月から音楽の時間を中心に、6年生は夏休みから、計画的に練習を重ねてきました。その成果を、11月8日(火)に『わたり会合同発表会』で地域・保護者の方々や具同保育所・中村西中学校の子ども達に、9日(水)に『全校音楽』で全校児童と先生方に、そして、10日(木)は本番として、四万十市立文化センターで他校の子ども達に発表披露しました。3日間連続した発表の舞台に、子ども達はいい意味の緊張感を味わいながら、徐々に集中度や完成度を高め、最終舞台の音楽祭では、充実感と満足感に満ちた素晴らしい発表ができました。



●5年重唱：「さがそう地球の宝物」 伴奏：渡邊
歌唱：江口、安田、岡本、柿谷
島村、岩松、江戸、草部

8人の歌声で午後の部が格調高い雰囲気
で始まりました。

中央区小学校音楽祭の午後の部のオープニングを飾ったのは、具同小学校の伝統とも言える5年生有志の重唱でした。一つ一つのメロディと一語一文の歌詞の意味や世界を大切に表現しながら、心を込めて澄み切った歌声を響かせました。途中、心を一つに拍手でリズムをとったり、「ランドセル」「校庭のくすのき」「四万十川」…、自慢の宝物を表現したりなどの演出の工夫もあり、思わず目と耳と心が、8人に集中しました。美しい歌声をひき立てるピアノ伴奏の音も素敵に響き、心が豊かになった嬉しい気分になりました。“歌っていいな！心震えるな！”今年もこれまでの先輩達に負けない素晴らしい感動をプレゼントしてくれました。



● 5年合唱：「青空に深呼吸」

伴奏：今倉

「人間っていいね！」

伴奏：高岡

初めて取り組む校内外の行事が連続する5年生の二学期。この時期の音楽祭の合唱で、5年生はぐっと成長を遂げます。

舞台上全員が並ぶと、表情に態度に上級生らしさを実感！



写真はわたり会発表会時

1曲目の「青空に深呼吸」は、力強いピアノ伴奏にのって、一音一音はつきりと、ソプラノ・アルトの音程を正確に表現しながら、のびやかな歌声を響かせました。3人の澄んだ高音で始まる2曲目の「人間っていいね！」は、村上紀子先生の指揮に全員の眼と心が集中し、歌詞に込められたメッセージを大切にしたい心に響く美しいハーモニーが文化センターのホール全体に快く広がりました。

5年生は、音楽の授業を大切にします。楽しみながら、真剣に取り組めます。

みんなでいい歌を表現したい！美しいハーモニーを創りたい！という意識や態度は、授業の時からずっと伝わってきました。2曲の豊かな歌の世界は、心優しい5年生の象徴のようにも聞こえ、また、授業や学校生活、委員会や学校の行事等で、明るく健気に頑張る5年生の確かな成長を感じました。夏からの自主的な練習で、合唱を演出する素敵なピアノ伴奏を披露した2人にも心からの拍手を贈ります。



● 6年合奏：「紅蓮（ぐれん）の弓矢」

夏休みからパート練習を積んできた6年生の合奏は、映画「進撃の巨人」のオープニングテーマ曲として大ヒットした「紅蓮の弓矢」。中央区小学校音楽祭の午前の部のトリを務めました。次はどんなフレーズがくるのだろうという変化に富んだ曲の流れを、それぞれの楽器の音色を奏で重ねながら、魅力的な演奏を繰り広げてくれました。一人一人の個性が豊かで、なかまや下級生を思いやる優しさをもつ6年生全員の「いざ本番！僕達、私達の最高の演奏を聞いてもらいたい！」という意気込み、集中した表情や態度に、頼もしさを感じたステージでした。

“チーム具同小学校”全員の先生が水泳と音楽に分かれて指導にあたった夏休み。音楽チームの先生方の指導を素直に受けながら、自主的にまとまってまじめに練習を重ねてきた6年生。「強弱、アクセント、速さに気をつけた練習の積みかさねの成果が発揮できた！」「今までで一番の演奏ができた！」達成感と満足感に満ちた堂々の演奏でした。

中小規模校の多い午前の部で、最後に迫力ある演奏を繰り広げました。



入賞おめでとう

税に関する作品「習字の部」：幡多租税教育推進協議会主催

●四万十市教育長賞● 4年…山 本

第13回新聞感想文コンクール：高新会・高知新聞社主催

本校5・6年生も全員が応募し、高知県内の小学生、中学生、高校生から6793点の応募があった標記のコンクールで、渡辺さん(5年)が、小学校高学年の部の「優秀」(5名)に選ばれました。作品(400字制限)をご紹介します。

元気いっぱい、高知県の宝物

四万十市立具同小学校 5年 渡 辺



この記事を選んだきっかけは、写真を見た時に水面から小さなアユがけん命にジャンプしていたので(アユってとぶがやなあ。)と思い、読んでみたくなったからです。

記事を読んでみると「上流へとアユがそ上している」という内容でした。読んでいると見出しにも本文にも「若アユ」という言葉がありました。(若アユってどんなアユのことだろう。)と不思議に思ったので調べてみました。すると、アユは一年しか生きられないということが分かりました。そして、冬に稚魚となって海であるていど成長し、春になって生まれた川へそ上するアユを、「若アユ」ということも知りました。私は、(アユは川の生き物やと思いよったけど海でも成長できるがや。しかもたくさんのきよりをそ上できるってすごい。)と感心しました。

さらに、本文に「解きん日が楽しみ」と書いていたので、昔の横瀬川のアユについておじいちゃんにインタビューをしてみました。すると、昔は横瀬川のアユの数は群れでたくさんいたということを知りました。あと、流れが速いところにいるアユはとても元気で体をくねらせながら一生けん命上流へ泳いでいっていたそうです。しかし、流れが速いためになかなか泳げていなかったそうです。私は、(とても流れが速いのにその流れに逆らってジャンプしながら泳ぐのってつかれるのにアユたちはえらいな。元気だな。)と思いました。しかし、年々アユの数は減ってきているようで私が実際に行ってみてもほとんど見ることはできません。

高知県にはアユのいる川がたくさんあります。その川に共通することはアユのすめる美しい自然があることです。私はこれからもその自然を守っていきたいです。

* 5月12日・高知新聞「川面に輝く若アユ」を読んで書いています。





文化庁：『文化芸術による子供の育成事業』

法村友井バレエ団公演



“一流の文化芸術、本物の舞台芸術を、未来を生きる子ども達に体験させたい！”

10月26日（水）、本校体育館は、ひととき夢の世界に様変わりしていました。大阪を拠点に活躍している法村友井（ほうむらともい）バレエ団の皆さまをお迎えしてのバレエ公演が実現したからです。

本校の子ども達にとって、バレエの舞台を鑑賞する機会はありません。一流のプロのバレエ団となると大人でも数少ないことでしょう。

6月23日（木）に、本公演に先立ってワークショップが行われました。ワークショップでは、5、6年生全員がA～Dのグループに分かれて、それぞれの先生から役割演技を教えてくださいました。その中の数名が本公演に出演したわけです。本校の5、6年生の中でバレエを習っている女子2名（島村さん、渡邊さん：いずれも5年生）は、プロのダンサーに交じりバーレッスンも行いました。

当日の構成は、**第一部「バレエを知って楽しもう」**ということで、バレエの基礎知識、表現方法について実演をしながら解説をしていただきました。**第二部「くるみ割り人形」第2幕より抜粋、第三部「騎兵隊の休息」**では、選出された児童も役の一員として出演し、見事に舞台に花を添えました。出演できた子ども達はもちろんですが、どの子もみんな思い出に残る時間となったのではないのでしょうか。

法村友井バレエ団のみなさま ありがとうございます！ [文責：永野]

優雅で美しい！

子ども達も大活躍

衣装も動きもかっこいい！



バレエ公演のDVDは、12月10日（土）の参観日と17日（土）の個人面談日にご覧いただけるようにする予定です。後日、改めてご案内します。

ぜったいわすれないバレエ
一ねん いわもと
きのう、がっこうにバレエの人たちがきました。えらばれた五・六ねん生もバレエにさんかしていました。すぐはく力があつて、あしがやわらかかったです。一ばんすごいなおもつたのは、しゃべらなくてもしゅわであらわして、あいてがわかってくれたことです。ジャンプ力がすごかったし、メイクもよかったです。おとこのひとのかみがたがおなじでした。ねずみはおもつたよりおおきかったです。
わたしのしょうらいのゆめは、バレエにきめました。